

wedi Subliner Dry | シート防水材

製品概要

耐引裂性に優れたポリエチレンフィルムを基材とする、薄型でひび割れ追従性(クラックブリッジング)のある防水シートです。両面に特殊不織布がラミネートされているため、タイル施工用接着剤等との優れた接着性を発揮します。屋内での壁・床へのセラミックタイル、大判タイル、天然石材の施工において、工期が限られた現場での迅速な防水処理に最適です。

用途

wedi Subliner Dryは、不織布が裏打ちされたシート状の防水材です。住宅や商業施設の浴室などにおいて、タイルやスラブ材の下地となる壁面や床面のシールおよび防水処理に使用されます。

湿気曝露クラスAおよびCに該当し、大量の水にさらされる水回り(ウェットルーム)向けの複合防水材の製造について、建築当局による試験および承認を受けています。対象となる場所の例:

- ・シャワー室
- ・プール周辺
- ・業務用厨房およびランドリー施設

製品の特長

- ・完全防水
- ・防湿性(水蒸気遮断性)
- ・柔軟性があり、ひび割れに追従(クラックブリッジング性)
- ・高い耐引裂性
- ・耐アルカリ性
- ・耐経年劣化性
- ・耐腐敗性
- ・迅速な施工が可能
- ・施工が容易
- ・低い仕上がり厚(薄型)
- ・wedi施工用資材との強力な接着性
- ・DIN EN 1847に準拠した耐薬品性
- ・温水式床暖房システムへの適用が可能
- ・電気式床暖房システムの下地としての適用が可能



- ・屋内用
- ・壁・床用
- ・防水性およびひび割れ追従性あり
- ・水に強くさらされる湿潤エリア向けの認定防水シート

下地表面の要件

- ・接着対象となる下地は、清浄かつ堅固であり、埃、汚れ、油分、グリース、養生剤、離型剤、その他メンブレン(防水層)を損傷させる恐れのある付着物がない状態である必要があります。
- ・吸水性のある無機質下地には、プライマー処理を施す必要があります。平滑な表面や非吸水性の表面であっても、ブラスト処理などの表面処理が適用できない場合は、同様にプライマー処理が必要です。
- ・床暖房システムが組み込まれたスクリード(床下地)に使用する場合、床暖房構造における床仕上げ材に関する現行の規定を遵守してください。
- ・コンクリートおよび軽量コンクリートは、打設後少なくとも3ヶ月以上経過している必要があります。
- ・残留水分量は、以下の値を超えないようにしてください。
セメント系スクリード*: 2.0%
硫酸カルシウム系スクリード: 0.5%
硫酸カルシウム系スクリード(床暖房あり): 0.3%
石膏系プラスター: 1.0%
(CM法による測定値)
- * 表面の平坦性が確保されている必要があります。凹凸のある表面には施工しないでください。
- ・マスタックアスファルトスクリードの表面全体にサンディング(研磨)を施し、所定の硬度等級を満たしている必要があります。

施工

1. wedi Subliner Dry(ウェディ・サブライナー・ドライ)を広げ、カッターナイフまたはハサミを使って必要なサイズにカットします。
2. 4mmまたは6mmのクシ目を持つクシ目ゴテを使用し、下地表面にタイル接着剤を均一かつ薄く塗布します。
3. Subliner Dryは、印刷面を上に向けて敷設します。
4. はみ出したタイル接着剤や内部の空気溜まり(気泡)を取り除きます。目地が十字に交差しないように配置してください。
5. シートの継ぎ目は、突き合わせ(並べて配置)にするか、あるいは少なくとも50mm以上重ね合わせて施工します。
6. 各シートの継ぎ目部分にwedi 620シーラントとwediシーリングテープを施工するか、あるいは重ね合わせ部分にwedi 620を塗布して2枚目のシートを圧着します。
7. 次に、継ぎ目や重ね合わせ部分をコテまたはゴムローラーで押さえます。
8. コーナーの継ぎ目や床と壁の接合部は、wediシーリングテープとwedi 620シーラントでシール処理を行います。
9. 床排水口の周辺では、排水口の開口部に合わせてシートを切り抜きます。排水口の設置手順に従い、wedi Subliner Dryメンブレンを排水口の開口部に至るフランジ全面に、wedi 620シーラントを用いて隙間なく接着する必要があります。
10. wedi Subliner Dryは、既存の伸縮目地、建物分離目地、および端部接合目地をまたがないように切り離して施工し、突き合わせ継ぎ目部分ではwediシーリングテープを用いてループ状に処理します。
11. タイル接着剤が硬化した後、壁や床に仕上げ材を施工します。特に床においては、防水層の下にあるタイル接着剤が確実に硬化している必要があります。そうでないと、歩行時に不陸(凹凸)が生じる恐れがあります。
12. タイルを施工する際は、「wedi Subliner Dry」にタイル接着剤を塗布し、タイルをモルタルの中にほぼ完全に埋め込むように圧着します。
化学物質にさらされる環境で仕上げを行う場合は、適切な反応硬化型樹脂接着剤および目地用モルタルを使用してください。

ご注意: 建築当局による認可が必要な箇所には、システムとしての試験に合格した構成部材のみを使用してください。
該当する部材については、試験証明書または認可書をご確認ください。屋内におけるシーリング(目地・隙間充填)の計画および施工にあたっては、各国の規格および指針を遵守する必要があります。